

酪農における農場 HACCP 認証取得の取組と効果

京都府丹後家畜保健衛生所 ○荻野武夫、種子田功

はじめに

当場はジャージー種搾乳牛約 30 頭を飼養、観光牧場として生産現場を公開、乳製品の加工販売やカフェを併設、消費者との距離が近く、安心・安全な生乳生産への意識が高い。

2015 年 10 月から認証取得の取組開始、2022 年 5 月に乳用牛として府内初の農場 HACCP 認証取得の概要を報告する。



写真1 丹後ジャージー牧場



写真2 加工販売状況

背景

平成 8 年から 13 年頃にかけて食品の安全性を揺るがすような出来事が発生した。

たとえば、病原性大腸菌(SA)による食中毒、乳製品のブドウ球菌毒素による集団食中毒、牛海綿状脳症が発生した。

平成 15 年に食品安全基本法が制定され、安全を科学的・客観手的に確保すること、安全を提供する実績により安心を取得する必要性が出てきた。

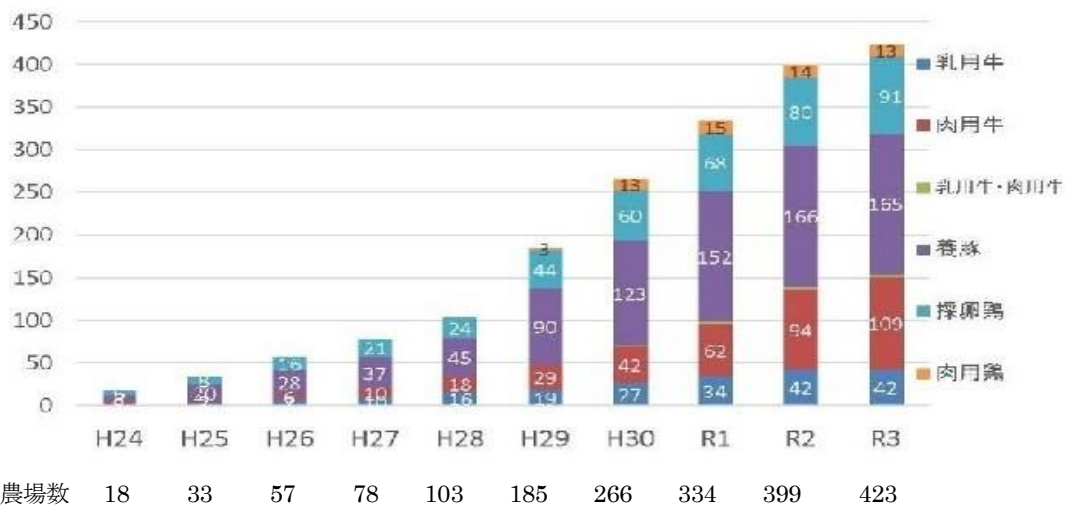


図1 農場 HACCP 認証農場の推移(令和3年12月3日現在) ¹⁾

この安心安全の確保には HACCP システムの導入が有効といわれている。²⁾
農場 HACCP の認証状況は平成 24 年には 18 農場でしたが年々増え、平成 29 年から急速に増加している。

畜種別では養豚・肉用牛が多く、乳用牛は肉用鶏に次いで少ない状況である。
このように、畜産現場でも HACCP システムの導入が必要と認識され始めている。

方法及び経過

○書類作成支援

- ・ HACCP チームの結成（家保・衛指協・牧場スタッフ）
- ・ 月 1 回程度の研修会（書類作成）の開催
- ・ 作成した書類の現場確認・修正・見直し作業実施
- ・ プレ審査の実施

○衛生対策

- ・ 全頭乳汁検査の実施
- ・ 積極的な淘汰プログラムの実施
- ・ バルク室の環境検査の実施
- ・ 洗浄作業の見直し



写真 3 研修会



写真 4 プレ審査

○苦労した点

- ・ 従業員の入替わりが多く、文書化・マニュアル化をしても作業手順が統一しにくかった。
- ・ 農場管理主担当の交代も多く、農場全体の意思統一ができにくかった
- ・ 文書作成者を農場責任者が兼任していたため、イベント期間になると多忙で文書作成時間がとれなかった。
- ・ 観光客と作業員との動線分離

○克服できた理由

- ・ 従業員の若返り
- ・ 経験のある農場主担当者の専任
- ・ コロナ禍で農場責任者に時間的な余裕が生まれた
- ・ 機動的な文書作成支援

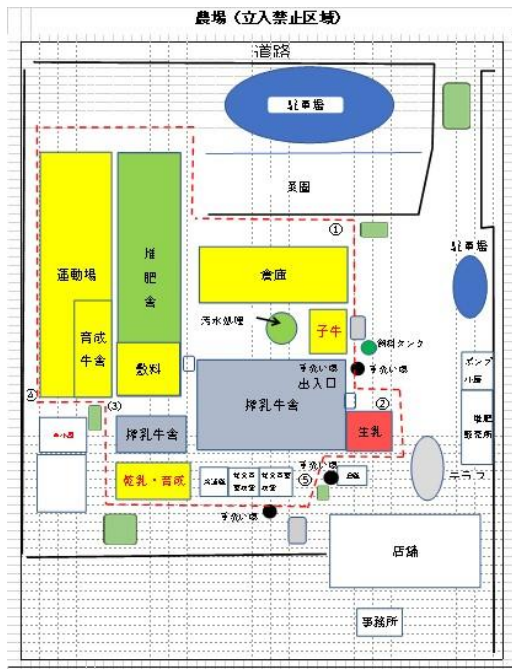


図2 立入禁止区域



写真5 牧場施設 立入禁止区域



写真6 牧場出入口 車両消毒（消石灰帯）



写真7 訪問者・牧場見学用消毒マット



写真8 訪問者・牧場見学者用手洗い場

結果

2018年6月に農場 HACCP 推進農場を取得、期間内の認証申請に至らず、再度、推進農場を取得し取組継続

研修会延べ43回実施

搾乳衛生対策の徹底で、SA 保菌率は47%から6%に低減、SA 乳房炎の発生減少

従業員の衛生管理意識の向上、経営者と従業員との情報共有化進展

2022年5月に認証取得

今後もフォローアップ支援として、更新に向け、HACCP 委員会へ参加し、衛生管理システムの継続的改善をPDCA サイクル活用により実施。

つまり、PDCA サイクルを回すことにより衛生管理目標の改善、HACCP 計画書の確実な遂行に向けて支援する。

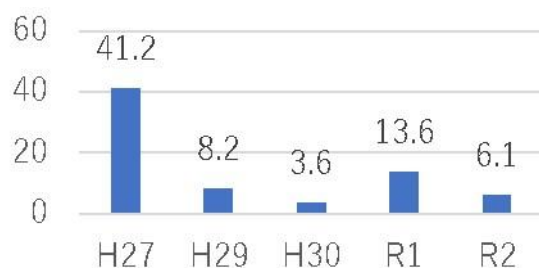


図3 SA 保菌率 (%)



写真9 認証書

引用文献

- 1) 中央畜産会 農場 HACCP システム新規構築・更新の傾向と対策 2 (2022)
- 2) 中央畜産会 畜産現場における飼養衛生管理向上の取組認証基準 (農場認証基準) の理解と普及に向けて 1-3 (2019)